

令和7年度第1回 各務原市男女が輝く都市づくり審議会議事要旨

日時 令和7年7月8日（火）午前10時00分から正午

場所 産業文化センター2階 第3会議室

<出席者>竹内委員（会長）、高田委員（副会長）、神戸委員、尾関委員、堀田委員、木村委員、各務委員、栗本委員、山田委員、川村委員、長縄委員、下野委員、柴山委員、林委員、産業活力部長、横山課長、斉藤係長、早川主事、中村主事補

<司会>事務局

- 1 開会のことば
- 2 委員委嘱
- 3 市長あいさつ
- 4 会長・副会長選出
- 5 会長・副会長あいさつ
- 6 議事（以下、議事進行は会長）

（議題第1号）

○令和6年度実績報告について

（委員）年次報告書の目標値達成の結果を出してほしい。

（事務局）作成し、公表する。

（委員）「健康に関する相談体制」や「子どもの頃からの教育と学習の推進」の取組がD評価（本年度対象事業なし）となっているがなぜか。

また、「早く家庭に帰る日」や「ポジティブアクション」の取組では、国や県の取組であり依頼がなかったため周知を行わなかったという理由で、C評価となっているが、国や県に任せ市ではやらないというのは改めたほうがいいのではないか。

講座・セミナーについては、男性参加者が少ないという課題があるので改善に取り組むべきだと感じる。

（事務局）関係課へ、積極的に取組むよう依頼し推進していく。

講座への男性参加については、現在、男性限定の講座、父親と子供ペアの講座を増やすなど、より男性が参加しやすいよう工夫をしている。それにより男性参加も少し増え、ターゲットを絞ることの重要性も感じている。

（委員）「早く家庭に帰る日」については、青年部、青年会議所など若い世代の人へ、こういうテーマで取り組みませんか、という呼びかけがあってもいいのでは。

(委員) 市内の、特に中小零細企業に関しては、現在人手不足が深刻な状況で、各企業、女性を積極的に採用したいという思いがある。引き続き、創業セミナーなどのタイアップを頑張っていきたい。

(委員) 年次報告書の事業評価全体比率グラフで A 評価の割合を見ると、目標Ⅳ「ともに生きる社会環境整備」は高く、逆に目標Ⅰ「男女共同参画への意識づくり」は低くなっている。意識作りができれば、他の項目の推進にもつながると感じる。

(事務局) 意識作りが大切だと思うので、そこを変えていける施策を市で取り組んでいく。

(議題第 2 号)

○令和 7 年度事業計画 (案) について

(委員) 父親・男性向け講座は、父親・男性しか参加できないのか。

(事務局) 父親・男性しか参加できない。ただし母親・女性向け講座も別で開催している。

(委員) 学校での授業参観や説明会などは、夫婦での参加が多くなっている。学校とのやり取りは、今でも母親が中心となることは多いが、以前と比べ父親の教育への参加が増加していると感じる。

(委員) 大学生を見ていると、10 年前と比べ、性別に対しての偏見が少なくなり、考え方がフラットになっていると感じる。ただ、結婚に対して否定的な人が多いことは心配点である。

(委員) 男女共同参画がテーマの生涯学習講座、特に父親と子供の講座などは、継続してやっていくことが大切で、継続していくことで参加者も増えていく。他市町村では、男女共同参画週間に講演会を行っているところもある。

(事務局) 秋ごろ開催のワークライフバランスセミナーでは、父親対象のセミナーがあるが、男女共同参画週間に合わせた講演会等の啓発イベントは行えていないので、今後検討をしていく。

(委員) ワークライフバランスセミナーについて、どの世代の人にも伝わりやすい表現で周知・募集ができると良い。

(委員) 男女共同参画がテーマの生涯学習講座は今まで報告がなかった。ワークライフバランスセミナーについては、いつもどのくらいの参加者がいるのか。予算はどのような内訳になっているか。

(事務局) 男女共同参画がテーマの生涯学習講座は今までもいきいき楽習課で開催していたが、これまでは市長公室で開催しているもののみお伝えしていた。ワークライフバランスセミナーは、定員 100 人（各回定員 20 人×5 回）のうち昨年度は約 80 人の方に参加していただいた。予算には、講師謝礼金の他、託児代、チラシの印刷・デザイン代が含まれる。

(委員) 自治会は、特に女性が少ない団体で、女性が入りにくい雰囲気がある。しかし、実際女性が活躍をしている地区もあるし、女性の意見は貴重であるため女性を巻き込んで活動をしていくことが大切であると感じる。自治会業務のデジタル化など負担軽減により、もっと女性の参加が増えることを期待する。

(委員) ワークライフバランスセミナーについては、市だけで開催をしていくと広がりづらくなるため、企業の社長、担い手マッチング事業の登録団体、市の SDG s 登録団体など各種団体にも情報提供できると良い。

(事務局) 様々な団体に積極的に発信をしていきたい。

(委員) ライフデザインセンターで開催する生涯学習講座のうちの父親向け講座は、開催する日時・時間帯が重要であるが、どのように考えているか。

(事務局) 土曜の昼などを検討中。父親と子が参加することで、母親に休憩する時間を取ってもらうという視点でも考えている。

(議題第 3 号)

○ミニ交流会について

(委員) 本来、年次報告書で、できているところ・できていないところを明確にし、それを踏まえて、次年度に何を行うのか話し合うことが大事であるが、その話し合いを行う組織と、実働する組織が上手く連携できていない。「いつものもしもキャラバン」のように、民間の団体などが継続して活動していく仕組みを作ることが大事である。そのため、テーマ設定が非常に重要である。

(委員) 以前、ハラスメントに関しての交流会を行ったときは、無意識の偏見がハラスメントにつながることもあるという話をした。参加者は高齢の方が多く、若者は少なかった。いろんな世代、立場の人が一緒になって交流できると良い。

（委員）無意識の思い込みは、自身も持っていると感じるし、こういった話し合いの場は重要であると感じる。

（委員）テーマは子育て世代が参加しやすいテーマが良いと感じる。また、開催日を土日や平日夜間に設定するとその世代が参加しやすいと感じる。テーマとして、「体験格差」などを取り上げて良いのでは。

（委員）交流会には意識の高い人は来るが、本当に来てほしい人は来ないのではと感じる。団体の会合や研修会などの後に、出張して交流会を開催するというやり方も良いのではなか。出張先としては、例えば、各自治体なども良いと思う。

（委員）現在はネット社会になっており、特に子育て世代は、子どもを連れて講座などに参加するということが減っている。自宅からオンライン参加ができるようにすると参加しやすくなると思う。

（事務局）ミニ交流会という形式ではなく、各団体の会合・研修会などに出張して、会合の前後に開催するというやり方もできると感じた。昨年度、人権講演会の後にミニ交流会を行ったときは、講演会に参加した方がそのまま残ってくれることもあった。

（委員）普段自分が思っていることを言える場があることが大事だと感じる。開催の方法・時間帯、出張先などについて、本日様々な意見が出たので、引き続き検討をしていきたい。

閉会